

2. 自然的条件

(1) 気象

年平均気温は、平成17年以降の17年間で10.4～11.7度の間で推移しており、年毎に大幅な差異は見られません。最高極値は真夏日(35℃)を超える年も見られ、最低極値はほとんどの年で-10℃を超え寒暖差が大きくなっています。降水量は1,214.0mm～2,099.5mmの間で推移し、年毎に大きな差異が発生しています。降雪量は合計が378cm～1274cmの間で推移しています。日降雪の最大は多くの年で50cmを超え、最深積雪は15年間のうち5年間で200cm以上、13年間で100cm以上となるなど豪雪地帯となっています。

平成18年度以降における日別の積雪量推移を見ると、早い年では11月に積雪量が50cmを超え、多くの年で12月までに50cm以上となっています。3月31日でも積雪量が100cm以上となっている年も見られる等、積雪している期間が非常に長くなっています。

表 各年の気温・降水量・降雪量

	気温			降水量	降雪の合計		
	年平均	最高極値	最低極値		降雪の合計	日降雪の最大	最深積雪
	℃	℃	℃	mm	cm	cm	cm
平成17年	10.6	35.4	-11.8	1,587.0	1088	46	203
平成18年	10.6	33.7	-11.0	1,570.0	1158	65	196
平成19年	11.2	35.7	-9.3	1,382.0	778	34	69
平成20年	10.9	34.4	-12.5	1,403.0	1109	39	166
平成21年	10.9	33.9	-11.6	1,325.0	817	37	89
平成22年	11.2	35.2	-11.8	1,616.5	945	47	138
平成23年	10.4	33.9	-11.5	1,590.0	1106	50	213
平成24年	10.5	34.9	-14.5	1,608.0	1274	42	238
平成25年	10.4	33.1	-14.4	2,099.5	1215	49	241
平成26年	10.4	36.2	-14.1	1,507.5	1149	54	189
平成27年	11.4	36.1	-12.4	1,309.5	933	52	168
平成28年	11.3	33.9	-10.6	1,214.0	817	51	155
平成29年	10.5	34.4	-10.9	1,555.0	844	53	131
平成30年	10.9	34.7	-16.3	1,781.0	1005	51	256
平成31年	11.2	35.3	-10.5	1,386.0	833	47	175
令和元年							
令和2年	11.7	35.3	-10.4	1,786.5	378	45	80

※降雪については寒候年(前年8月～翌年7月)で集計されています

## 第2章 都市の現況動向の把握

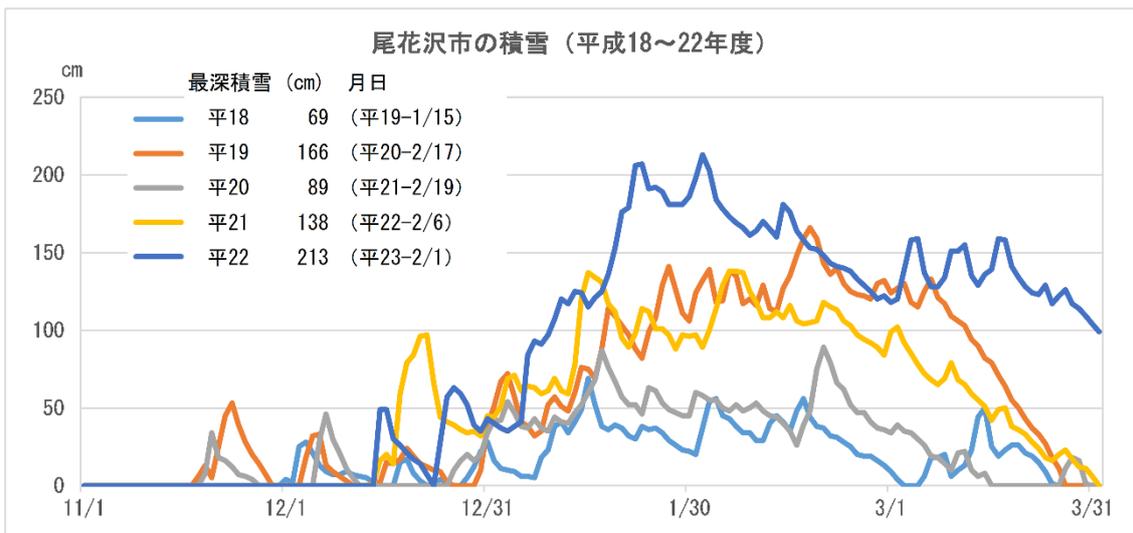


図 各年における積雪量の推移（平成 18～22 年度）

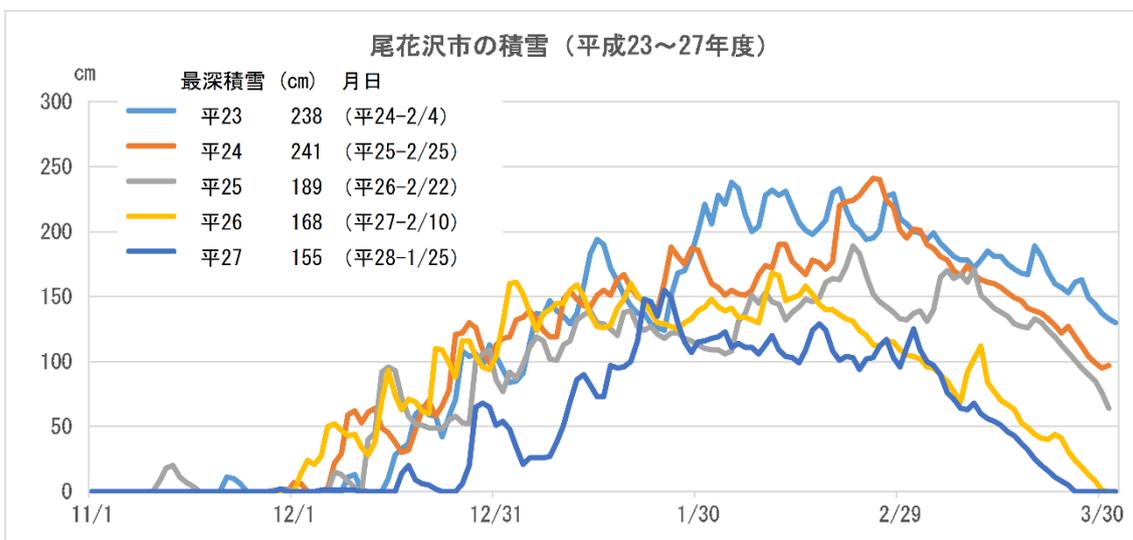


図 各年における積雪量の推移（平成 23～27 年度）

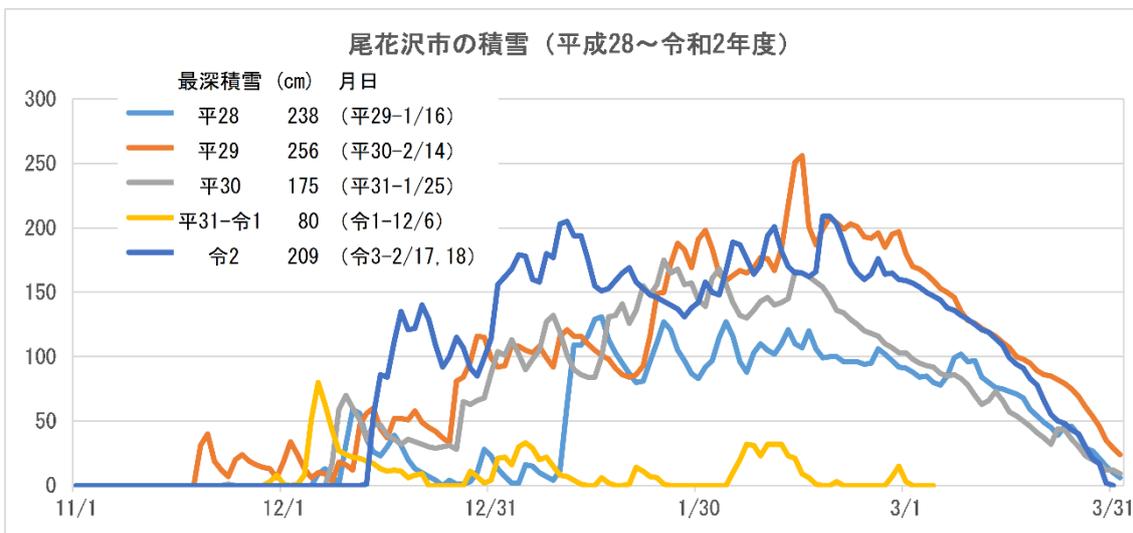


図 各年における積雪量の推移（平成 28～令和 2 年度）

## 第2章 都市の現況動向の把握

### (2) 地形

本市は、丘陵部と河川により形成された三角形の盆地により形成されています。西側の盆地では標高が60m～200m程度となり、丘陵部では1,000mを超える場所もあります。南側の御所山で最も標高が高く、標高700m以上の場所が広く分布しています。御所山山頂付近では1,000mを超える場所が広がっています。

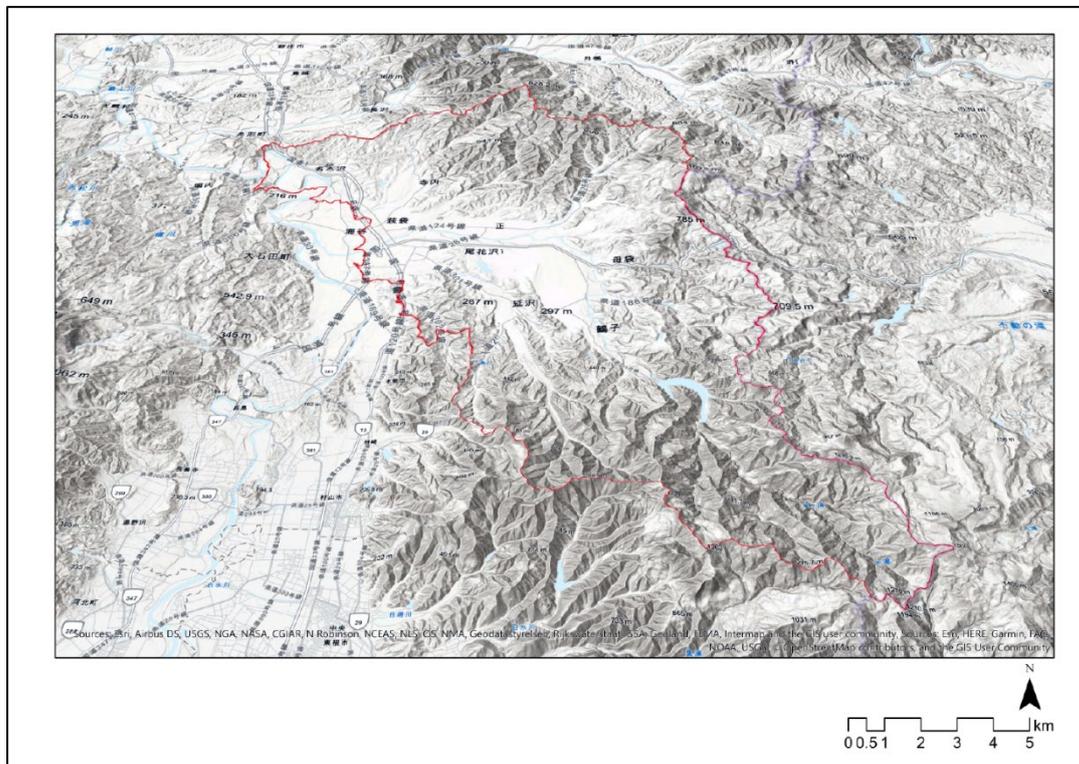


図 地形図

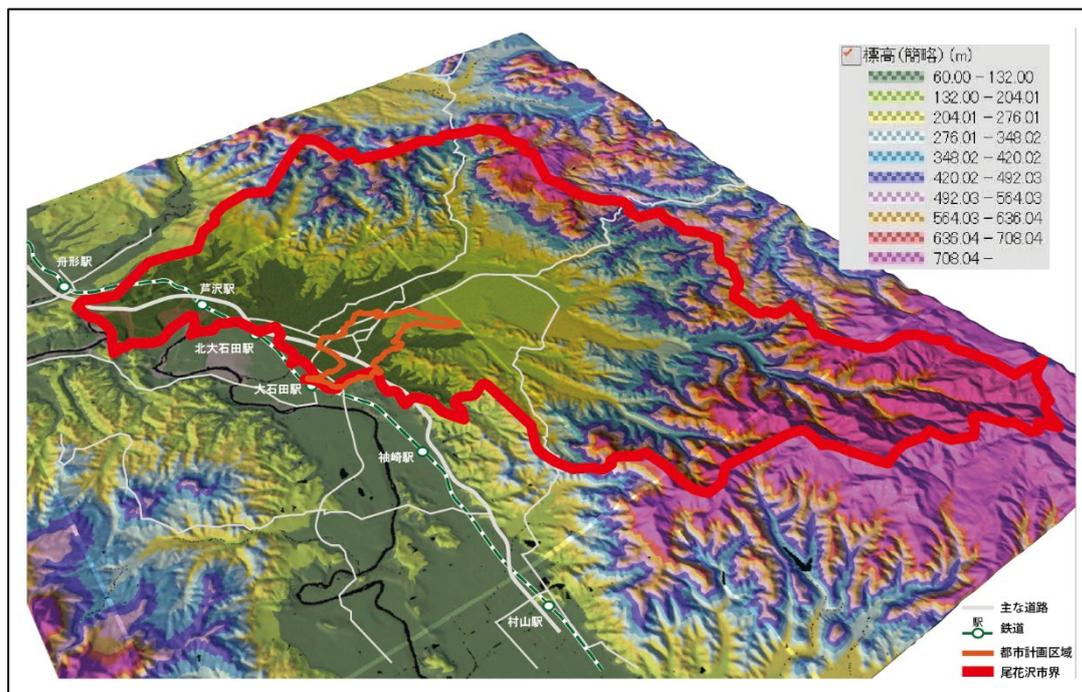


図 標高分布

### 3. 土地利用

#### (1) 土地利用現況

市域の60%以上にあたる232.44k㎡が山林となっており、山林中心の土地利用となっています。宅地は全体の1.6%程度にあたる5.93k㎡となっていますが、平成29年度と令和3年度を比較するとわずかに増加しています。

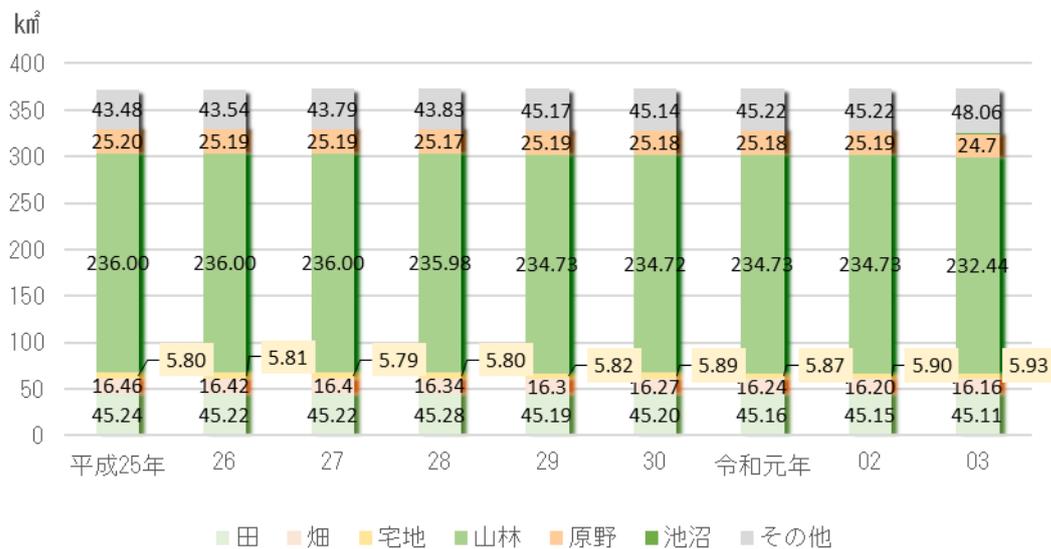


図 地目別土地利用の推移

#### 4. 人口

##### (1) 人口・世帯数の推移

本市の人口は、昭和30年の33,277人をピークに減少を続けており、早い段階から人口減少が生じていました。平成27年においては16,953人とピーク時の半数程度となっています。世帯数は昭和60年の5,746世帯をピークに人口減少と比較すると緩やかな減少傾向にあり、平成27年度には5,109世帯と約600世帯減少しています。



図 人口および世帯数の推移

(出典：国勢調査)

##### (2) 年齢3区分別人口割合の推移

年齢3区分別人口の割合を見ると、昭和60年では15.2%だった高齢人口の割合が平成12年に27.9%と高齢化の基準値である25%以上となっています。平成27年では36.7%と非常に高く、高齢化が深刻な状況となっています。

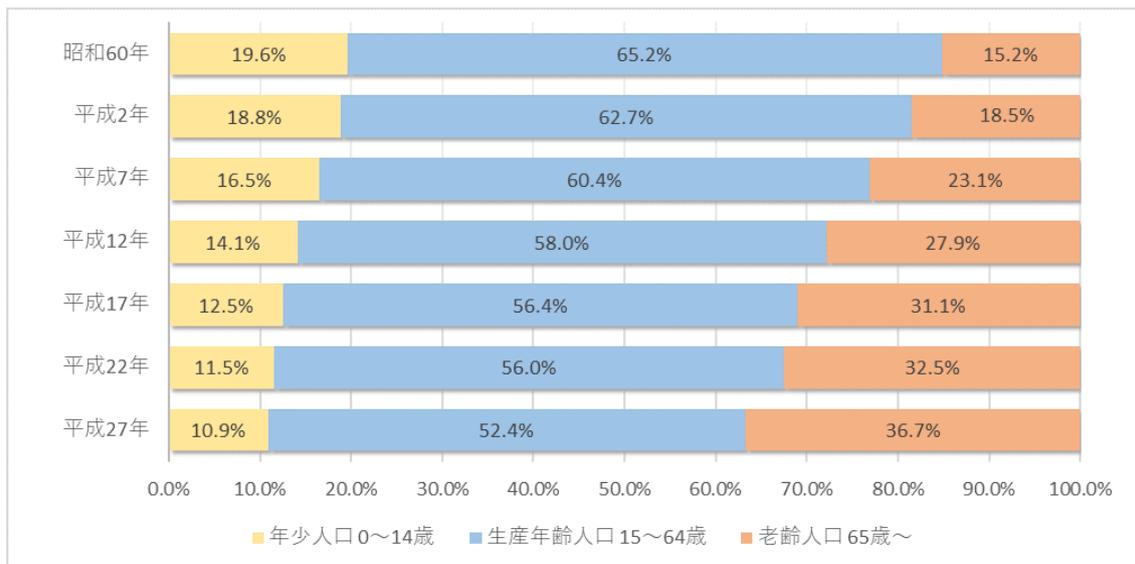


図 年齢3区分別人口割合の推移

(出典：国勢調査)

## 第2章 都市の現況動向の把握

### (3) 人口動態

本市の人口は、平成12年以降毎年自然減・社会減となっています。自然人口動態を見ると、年による差異はあるものの、自然減の値は増加傾向にあります。出生者数は平成28年度に100人を下回りました。

表 平成13年以降の人口動態

区分 年次	自然動態			社会動態			区分 年次	自然動態			社会動態		
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減		出生	死亡	増減	転入	転出	増減
平成13	165	221	-56	437	575	-138	23	107	309	-202	315	467	-152
14	153	257	-104	408	590	-182	24	108	276	-168	282	480	-198
15	149	243	-94	390	561	-171	25	112	295	-183	274	515	-241
16	177	238	-61	409	539	-130	26	100	277	-177	239	536	-297
17	147	267	-120	296	520	-224	27	100	273	-173	317	474	-157
18	156	257	-101	315	568	-253	28	99	285	-186	269	506	-237
19	150	254	-104	333	509	-176	29	92	316	-224	248	444	-196
20	117	282	-165	306	585	-279	30	79	290	-217	279	449	-170
21	108	278	-170	357	530	-173	令和元年	65	277	-212	246	450	-204
22	113	286	-173	294	489	-195	02	54	299	-245	251	442	-191

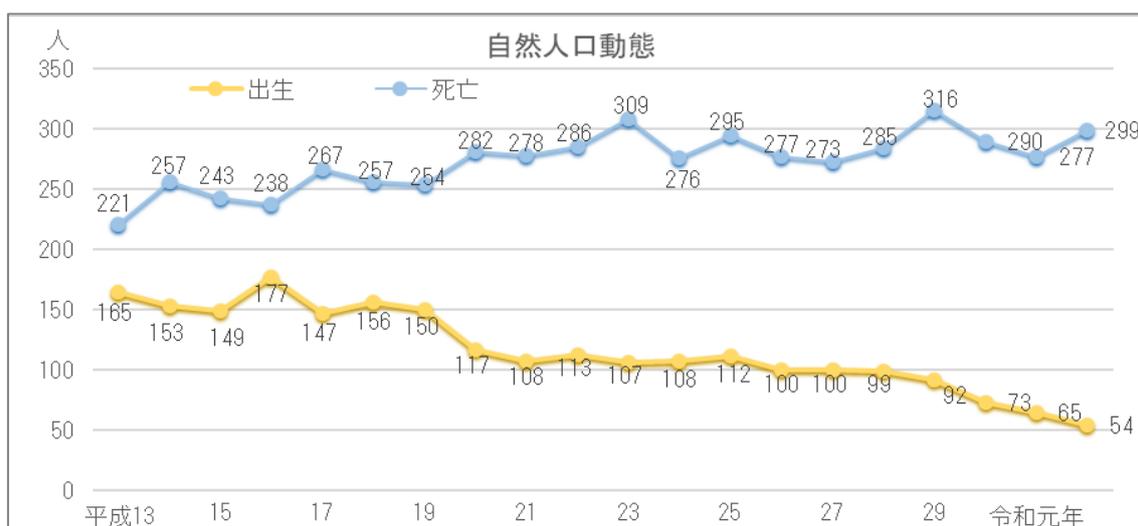


図 平成13年以降の人口動態の推移

(4) 地域別・ゾーン別の状況

1) 地域別人口

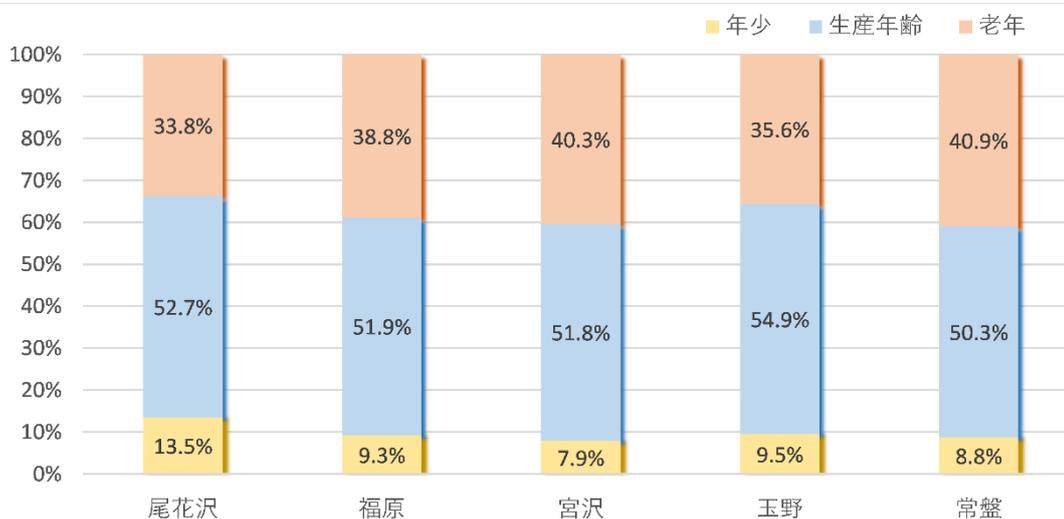
尾花沢地域で人口が最も多く、平成27年度では7,294人となっています。次いで福原地域が3,694人となり、玉野地域が1,817人と最も少なくなっています。全ての地域で人口減少が生じており、人口の少ない宮沢地区、玉野地区、常盤地区で増減率が小さくより顕著になっています。

表 地域別人口増減

	国勢調査人口（10月1日）			増減率	
	平成17年	平成22年	平成27年	(H27/H22)	(H27/H17)
尾花沢	8,339	7,846	7,294	0.93	0.87
福原	4,631	4,183	3,694	0.88	0.80
宮沢	2,736	2,383	2,048	0.86	0.75
玉野	2,288	2,084	1,817	0.87	0.79
常盤	2,701	2,459	2,100	0.85	0.78
計	20,695	18,955	16,953	0.89	0.82

(出典：国勢調査)

年齢3区分別人口割合では、常盤地域、宮沢地域の2地域で老年人口が40%と高齢化が特に顕著となっています。尾花沢地域では年少人口が13.5%、老年人口は33.8%と高齢化は進展しているものの他地域と比較するとやや若年層が多くなっています。



地域別年齢3区分別人口割合 (平成27年)

(出典：国勢調査)

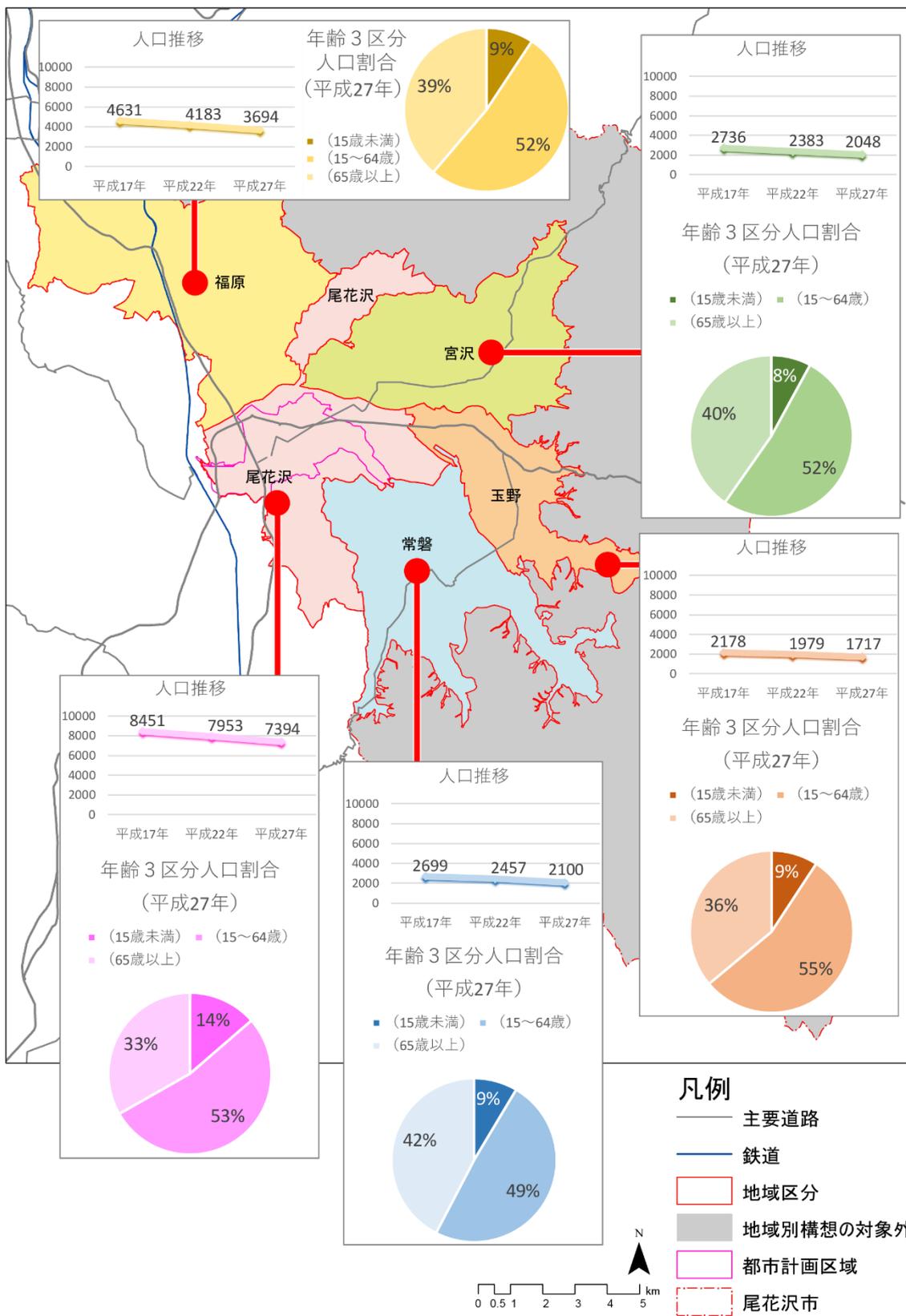


図 地域別の人口推移と年齢3区分人口割合

## 第2章 都市の現況動向の把握

### ○住民基本台帳人口

平成13年以降の住民基本台帳地域別人口を見ると、尾花沢地区のみ平成22年から平成25年にかけて世帯数が増加していますが、すべての地区で人口・世帯ともに減少傾向です。

一方、外国人の人口は平成16年が最も多く、以降減少傾向にあります。外国人が最も多いのは尾花沢地区、次いで福原地区です。

地区	項目	2001年 (平成13年)	2004年 (平成16年)	2007年 (平成19年)	2010年 (平成22年)	2013年 (平成25年)	2016年 (平成28年)	2019年 (令和元年)
尾花沢地区	人口	8,723	8,566	8,314	7,991	7,801	7,391	7,064
	うち外国人	53	52	32	26	29	35	32
	世帯	2,607	2,609	2,588	2,582	2,657	2,624	2,594
福原地区	人口	5,010	4,761	4,520	4,209	3,887	3,593	3,300
	うち外国人	51	51	45	38	36	29	28
	世帯	1,295	1,282	1,254	1,229	1,192	1,149	1,120
宮沢地区	人口	3,021	2,904	2,746	2,481	2,254	2,077	1,849
	うち外国人	14	16	12	9	5	7	6
	世帯	726	721	706	689	663	642	622
玉野地区	人口	2,528	2,434	2,284	2,163	1,964	1,847	1,708
	うち外国人	12	16	20	16	15	14	17
	世帯	568	556	545	536	516	505	509
常盤地区	人口	2,944	2,830	2,665	2,515	2,305	2,066	1,833
	うち外国人	12	12	22	22	18	16	19
	世帯	690	695	683	664	646	628	602
合計	人口	22,226	21,495	20,529	19,359	18,211	16,974	15,754
	うち外国人	142	147	131	111	103	101	102
	世帯	5,886	5,863	5,776	5,700	5,674	5,548	5,447

表 住民基本台帳地域別人口

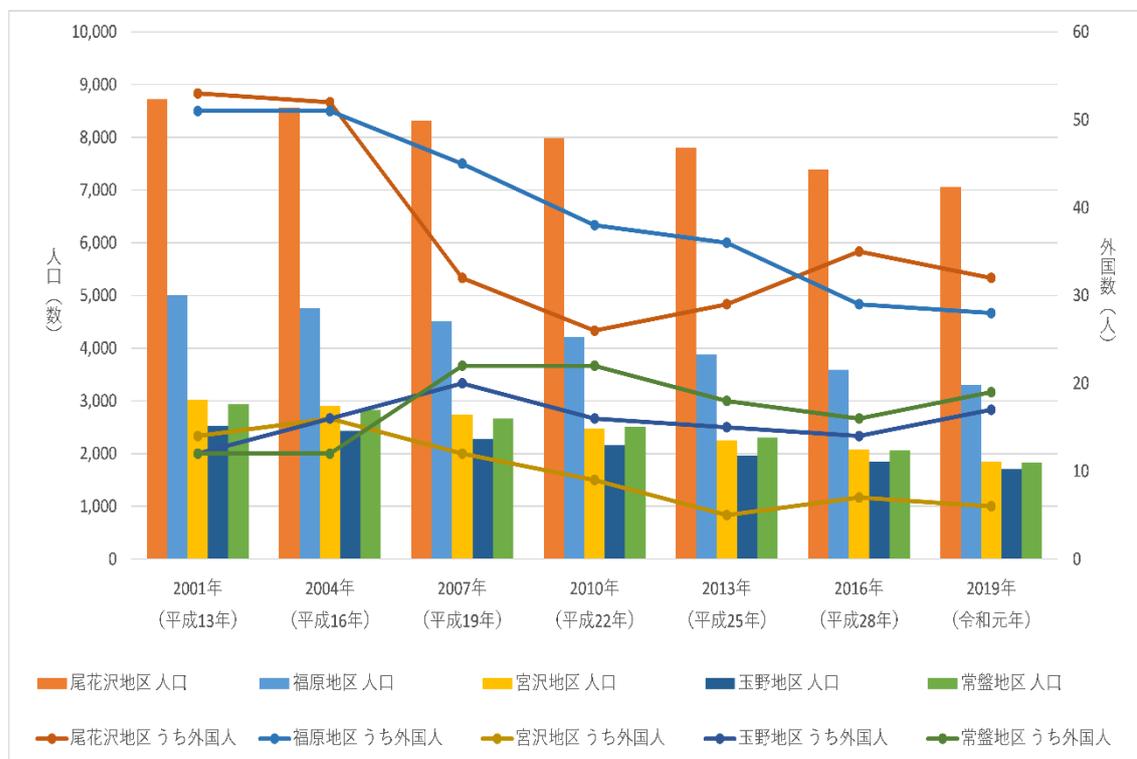


図 住民基本台帳に基づく地域別人口及び外国人数

## 第2章 都市の現況動向の把握

### 2) 小地域別年齢3区分別人口（平成27年度）

国勢調査小ゾーン別に平成17年～27年までの人口推移と年齢3区分別人口の割合を整理しました。下図は平成27年国勢調査における小ゾーン区分を示しています。

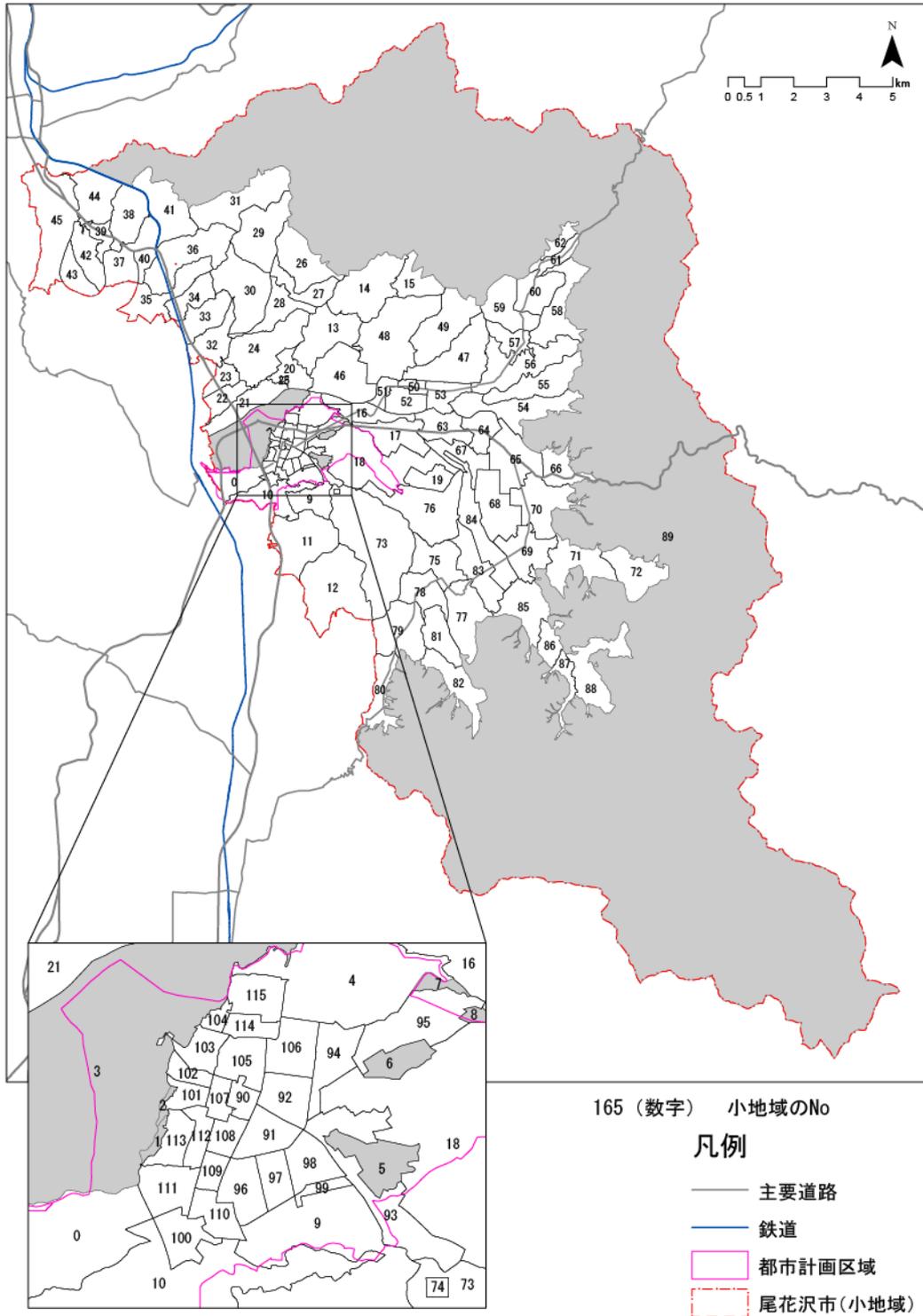


図 国勢調査小ゾーン区分（出典：国勢調査）

表 国勢調査小ゾーン名称

No	小ゾーン名称 (代表地点)	No	小ゾーン名称 (代表地点)	No	小ゾーン名称 (代表地点)
0	大字尾花沢上町 4	39	大字名木沢名木沢 3	78	大字延沢荒町
1	大字尾花沢上町 5	40	大字名木沢上ノ原	79	大字畑沢畑沢 1
2	大字尾花沢禁町 2	41	大字名木沢大海平	80	大字畑沢畑沢 2
3	大字尾花沢禁町 3	42	大字名木沢西野々	81	大字細野細野 1
4	大字尾花沢北町	43	大字名木沢西野々下台	82	大字細野細野 2
5	大字尾花沢新町東	44	大字名木沢木友	83	大字六沢六沢 1
6	大字尾花沢新町 5 (E1)	45	大字毒沢	84	大字六沢六沢 2
7	大字尾花沢新町 5 (E2)	46	大字丹生安久戸	85	大字鶴子鶴子 1
8	大字尾花沢新町 5 (E3)	47	大字丹生丹生 1	86	大字鶴子鶴子 2
9	大字尾花沢荒楯	48	大字丹生丹生 2	87	大字鶴子鶴子 3
10	大字臈気	49	大字丹生丹生 3	88	大字鶴子鶴子 4
11	大字五十沢横内	50	大字正巖正巖 1	89	大字上の畑
12	大字五十沢五十沢	51	大字正巖正巖 2	90	新町中央
13	大字牛房野田沢	52	大字正巖正巖 3	91	新町 1 丁目
14	大字牛房野牛房野 1	53	大字正巖上の宿	92	新町 2 丁目
15	大字牛房野牛房野 2	54	大字行沢	93	新町 3 丁目
16	大字二藤袋二藤袋 1	55	大字中島	94	新町 4 丁目
17	大字二藤袋二藤袋 2	56	大字押切	95	新町 5 丁目
18	大字二藤袋東原	57	大字高橋高橋	96	若葉町 1 丁目
19	大字二藤袋玉ノ原	58	大字高橋中刈	97	若葉町 2 丁目
20	大字荻袋和合	59	大字富山矢越	98	若葉町 3 丁目
21	大字荻袋荻袋 1	60	大字富山関谷	99	若葉町 4 丁目
22	大字荻袋荻袋 2	61	大字市野々	100	臈気
23	大字荻袋荻袋 3	62	大字岩谷沢	101	禁町 1 丁目
24	大字荻袋荻袋開拓	63	大字北郷北郷	102	禁町 2 丁目
25	大字荻袋新生園	64	大字北郷坂本	103	禁町 3 丁目
26	大字寺内寺内 1	65	大字鶴巻田	104	禁町 4 丁目
27	大字寺内寺内 2	66	大字母袋	105	横町 1 丁目
28	大字寺内寺内 3	67	大字原田下原田	106	横町 2 丁目
29	大字寺内西原 1	68	大字原田上原田	107	中町
30	大字寺内西原 2	69	大字下柳渡戸	108	上町 1 丁目
31	大字南沢	70	大字上柳渡戸粟生	109	上町 2 丁目
32	大字野黒沢野黒沢 1	71	大字上柳渡戸寺町	110	上町 3 丁目
33	大字野黒沢野黒沢 2	72	大字銀山新畑	111	上町 4 丁目
34	大字芦沢芦沢 1	73	大字延沢古殿	112	上町 5 丁目
35	大字芦沢芦沢 2	74	大字延沢万寿荘	113	上町 6 丁目
36	大字芦沢芦沢駅前	75	大字延沢九日町	114	北町 1 丁目
37	大字名木沢名木沢 1	76	大字延沢袖原	115	北町 2 丁目
38	大字名木沢名木沢 2	77	大字延沢三日町		

## 第2章 都市の現況動向の把握

### ○人口増減（平成 27/平成 22） ※平成 22 年の数値を 1.0 とした場合の増減率

平成 22 年から 27 年の人口増減を見ると、ほとんどのゾーンで人口減少となっており、山間部においては平成 27/22 が 0.7 未満や 0.7~0.8 のゾーンが多く、人口減少が特に顕著となっています。また、中心部に比較的近い大字荻袋の既存集落においても人口減少が著しくなっています。人口増が見られるゾーンは土地区画整理事業によって整備された若葉町 1 丁目、2 丁目、4 丁目および荻袋の福原工業団地周辺の 4 ゾーンとなっています。

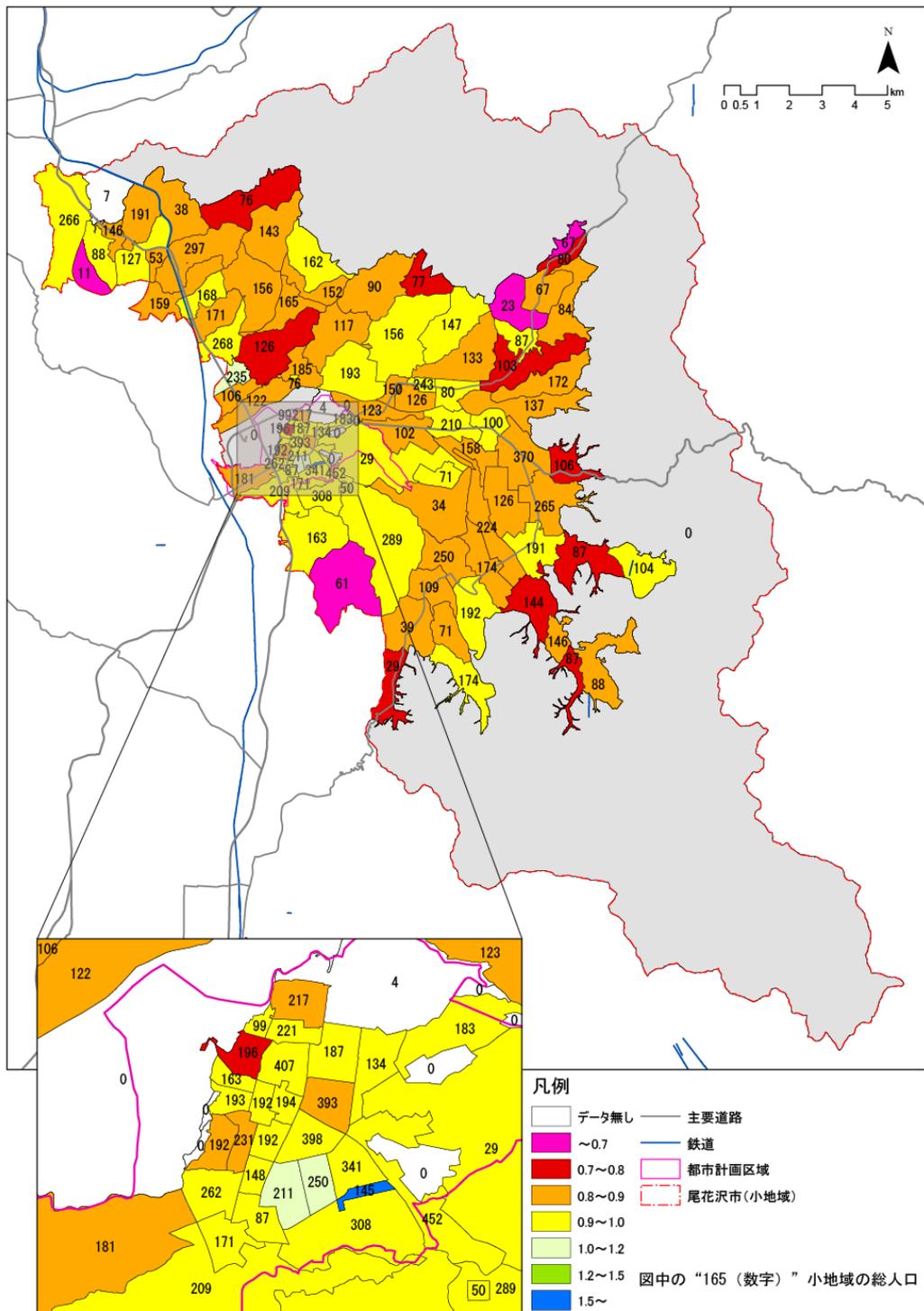


図 国勢調査小ゾーン別人口増減率（H27/22）（出典：国勢調査データを加工）

## 第2章 都市の現況動向の把握

### ○高齢化の状況（平成 27 年）

平成 27 年におけるゾーン別の高齢化率を見ると、ほとんどのゾーンで 30%を超え、高齢化が進展しています。一部のゾーンでは 50%を超えています。人口減少率と高齢化率の高いゾーンは必ずしも一致するわけではなく、大字朧気、大字五十沢横内は、人口増加率は 0.9~1.0 と比較的小さくなっていますが、高齢化率は 50%を超えています。中心部では比較的高齢化率は低くなっています。

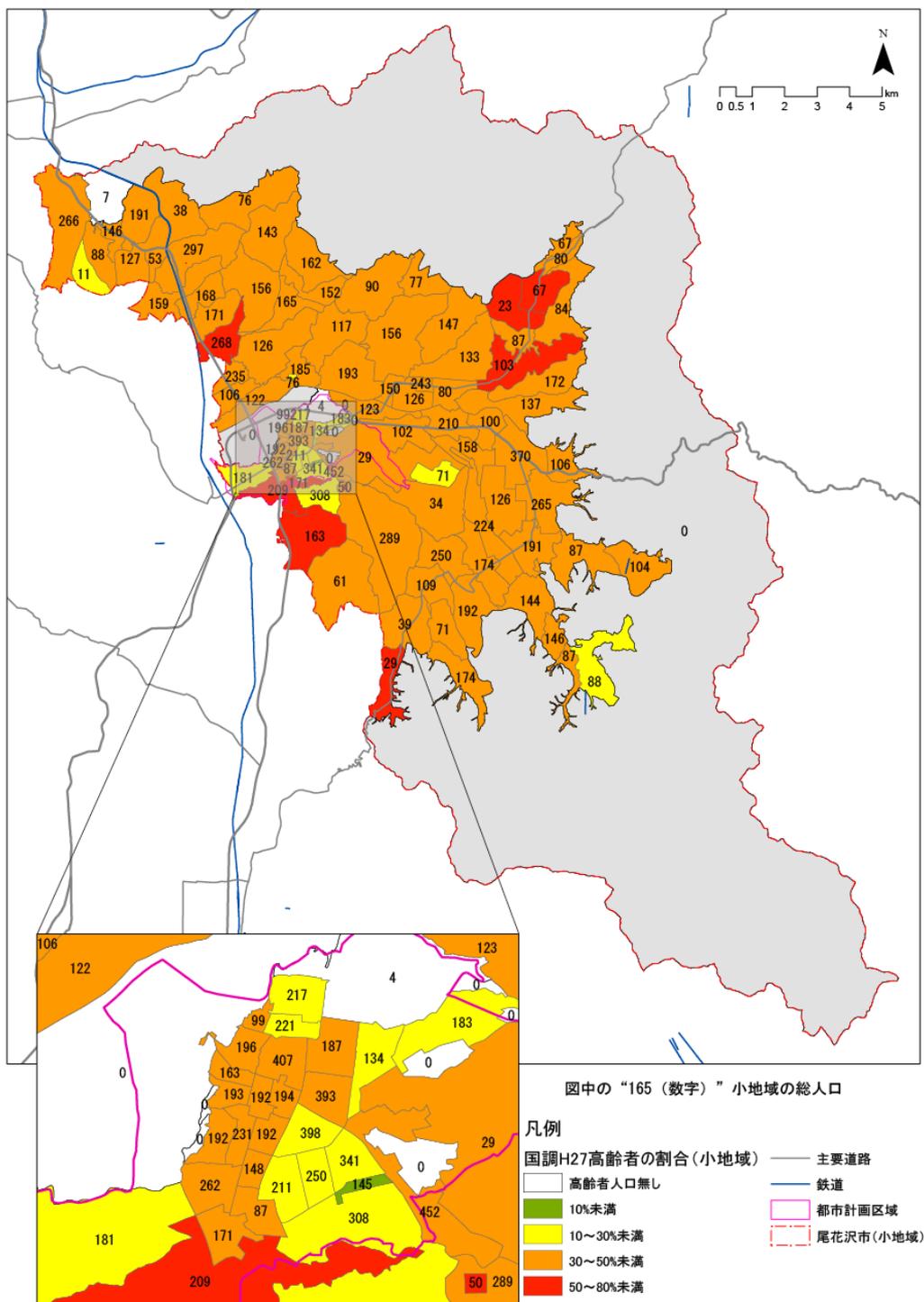


図 国勢調査小ゾーン別老年人口率（出典：国勢調査データを加工）

3) 500m メッシュ人口分布 (平成 27 年度)

国勢調査 500m メッシュ人口を見ると、中心部においては 400 人以上の場所も多くなっていますが、それ以外の場所では大部分が 100 人未満となっており人口密度は低いものとなっています。中心部においては人口分布に面的な広がりが見られますが、その他においては幹線道路沿いに人口が分布しています。

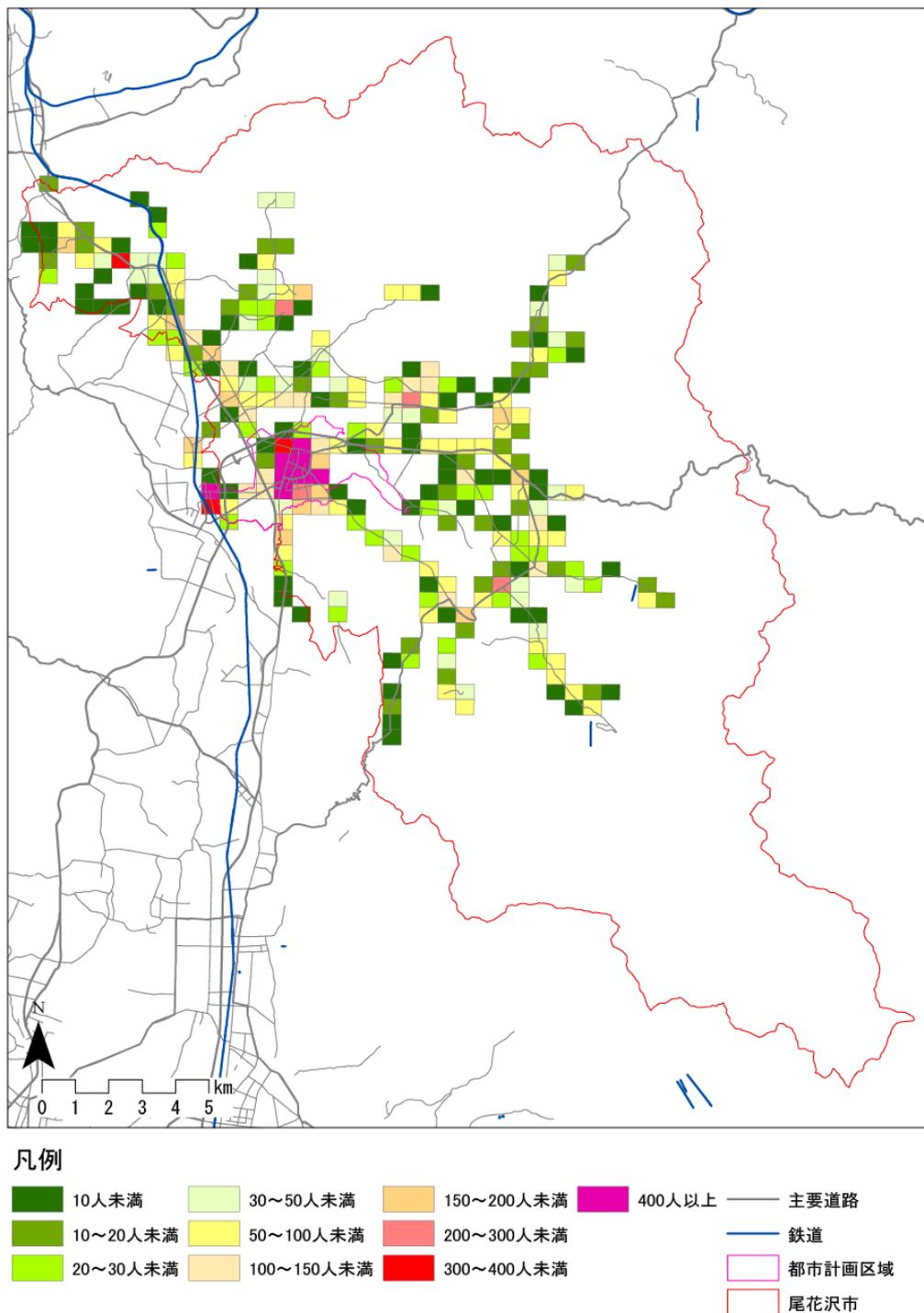


図 国勢調査 500m メッシュ人口分布 (出典：国勢調査データを加工)

## 5. 産業

### (1) 就業者数

就業者数は減少を続けており、平成27年では8,995人と平成2年の7割弱となっています。特に、第一次産業従事者は平成27年では1,993人と平成2年の4割強にまで減少し、第二次産業も2,826人と6割強となっています。第三次産業は4,166人と平成2年よりも多くなっていますが、平成17年の4,657人をピークに減少を続けています。



図 産業大分類別就業者数の推移

(出典：国勢調査)

### (2) 農業の状況

#### 1) 経営耕地面積

経営耕地面積は減少を続けており、令和2年では424,860aと昭和55年の8割弱まで減少しています。特に、樹園地は55,043aから959aと大幅に減少しています。畑は平成12年に79,102aまで減少しましたが、それ以降は増加しており、令和2年には92,442aと昭和55年以降最も多くなっています。水田は平成17年から平成22年の間に17,002a減少し、その後も減少が続いています。一方、1戸当り耕地面積は令和2年の281a/戸が最大値となっています。

表 経営耕地面積の推移

年	総面積	田	畑	樹園地				1戸当り 耕地面積
				総数	果樹園	桑園	その他	
昭和55	534,321	387,218	92,060	55,043	1,526	49,403	4,114	147
60	530,258	397,588	91,091	41,579	1,088	37,719	2,772	154
平成2	496,224	393,927	86,381	15,916	594	13,120	2,202	155
7	483,733	392,180	86,823	4,730	1,592	2,290	848	163
12	462,730	380,681	79,102	2,947	1,291	0	1,656	168
17	474,212	386,349	86,575	1,288	調査なし	調査なし	調査なし	190
22	462,088	369,347	91,136	1,605	調査なし	調査なし	調査なし	209
27	456,816	363,744	92,262	810	調査なし	調査なし	調査なし	242
令和2	424,860	331,459	92,442	959	調査なし	調査なし	調査なし	281

(出典：農業基本調査・農(林)業センサス)

## 2) 農家数

農家数は減少を続けており、令和2年は1,511戸と昭和62年の5割弱となっています。前回都市計画マスタープランの基準年である平成12年からの20年間で2,752戸から1,511戸と6割弱にまで減少しています。平成9年以降は自給的農家数を含んでおり、経営農家数はさらに減少しています。一方、専業農家数は平成9年以降増加を続けており、平成27年には423戸と平成12年の2.2倍となっています。

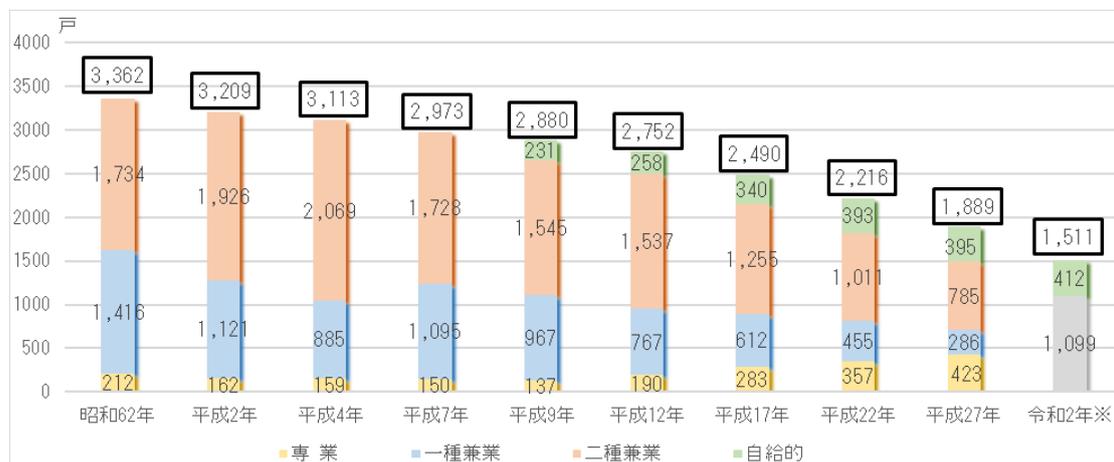


図 専業別農家数の推移（出典：農業基本調査・農（林）業センサス）

※令和2年は販売農家種別（専業、一種兼業、二種兼業）の集計区分が統合されたため、3種別合計値を記載

## (3) 工業の状況

### 1) 事業所数および従業員数

従業員4人以上の事業所数は、平成21年から令和元年までは50事業所前後で推移しています。従業員数は平成21年から平成28年まで減少を続け、1,719人から1,429人に減少しています。平成29年には前年比17人増加しましたが、平成30年以降再び減少しています。

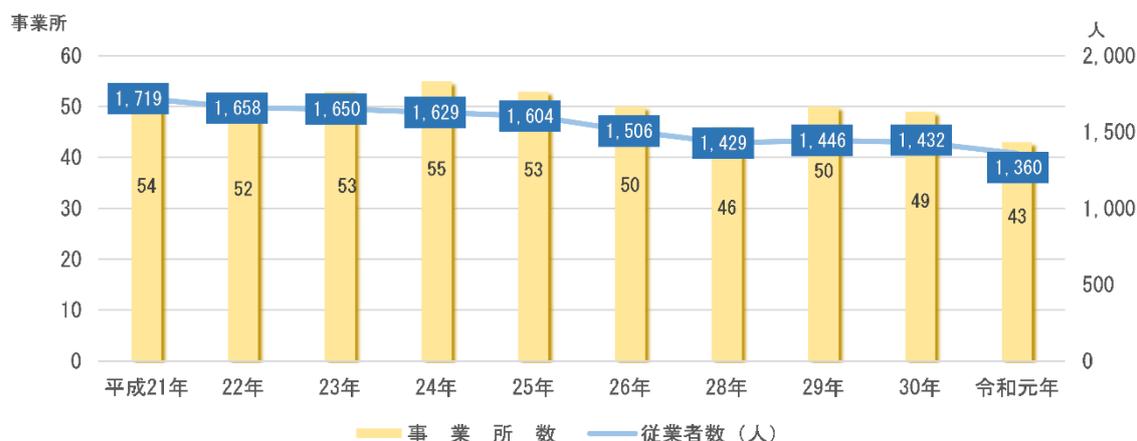


図 従業員4人以上の事業所数および従業員数の推移（出典：山形県工業統計調査）

2) 製造品出荷額等

製造品出荷額は、近年 300 億円程度で推移しており平成 23 年の 315 億がピークとなっています。平成 30 年度は 302 億円で、平成 29 年度の 299 億円から 3 億円増となりましたが、令和元年には 235 億円となり、ピーク時の平成 23 年度と比較すると 80 億円減となっています。

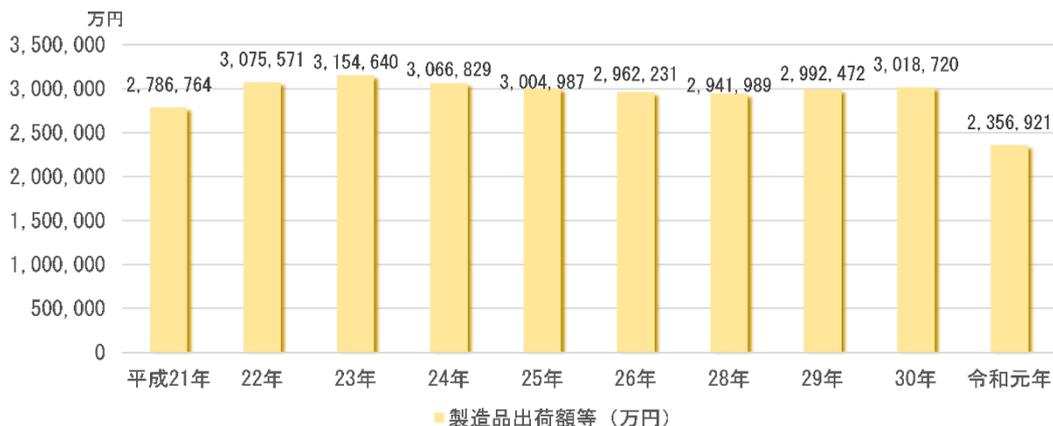


図 製造品出荷額の推移 (出典：山形県工業統計調査)

3) 工業団地

尾花沢 IC 北側の大字荻袋では、恵まれた交通条件を活かした福原工業団地が立地しています。総面積は 17.7ha で、14 の企業と学校給食共同調理場が立地しており、新たに 2 つの企業が進出予定です。令和 4 年 3 月末現在で計 0.9ha が分譲地となっています。

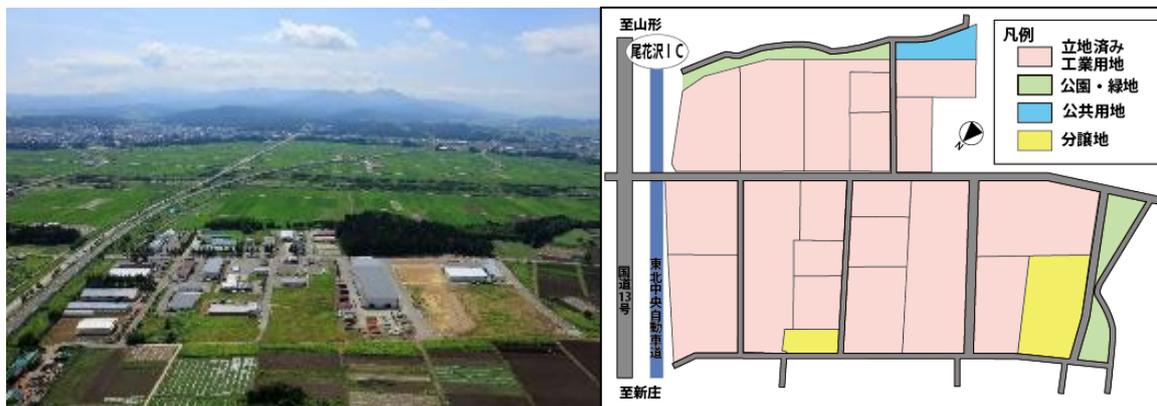


図 福原工業団地の位置と区画

(4) 商業の状況

1) 商店数、従業員数、年間商品販売額

商店数は、昭和54年から平成28年で476店から214店と半分以下となっています。従業員数は1,360人から1,007人と減少しているものの、商店数と比較すると減少率は小さくなっています。年間商品販売額は、平成19年から28年で1,852,254万円から2,997,677万円、1商店当り年間販売額は6,499万円から14,008万円と大規模店舗の立地により、それぞれ増加傾向となっています。

表 年次別商店数、従業員数、年間商品販売額

年次	商店数	従業者数	年間商品販売額	1商店当り年間販売額
	店	人	万円	万円
昭和54年	476	1,360	1,271,086	2,670
57	518	1,369	1,757,059	3,392
60	423	1,276	1,768,403	4,181
63	421	1,393	1,854,610	4,405
平成3年	415	1,376	2,537,543	6,115
6	390	1,443	2,862,826	7,341
9	384	1,555	3,103,439	8,082
11	371	1,474	2,800,808	7,549
14	328	1,473	2,619,023	7,985
16	306	1,355	2,129,171	6,958
19	285	1,326	1,852,254	6,499
26	231	1,130	3,311,520	14,336
28	214	1,007	2,997,677	14,008

(出典：商業統計)

2) 業種別商店数

業種別商店数を見ると、その他を除くと飲食料点小売業が74店舗最も多く、次いで機械器具小売業が30店舗となっています。卸売業では、建築材料・金属材料等卸売業が15店舗で最も多くなっています。

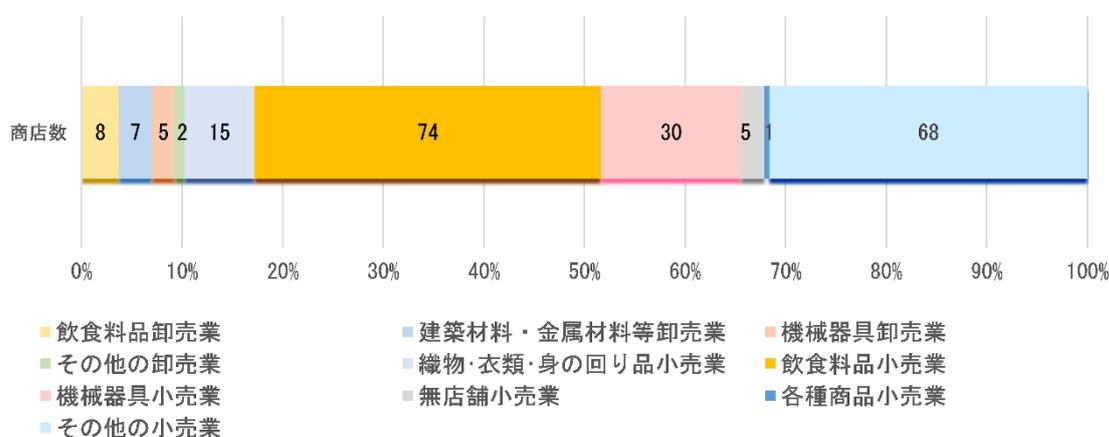


図 業種別商店数 (平成28年6月1日時点)

## 6. 都市づくりの現状

### (1) 市街地開発事業の状況

本市における土地区画整理事業は、「大道寺土地区画整理事業」、「中新田土地区画整理事業」の2事業であり、平成9年に施工が完了しています。総面積は39.1haとなっています。

地区名	施工面積	施工期間	施行者
大道寺土地区画整理事業	11.6ha	昭和36年～39年	尾花沢市
中新田土地区画整理事業	27.5ha	昭和57年～平成9年	尾花沢市

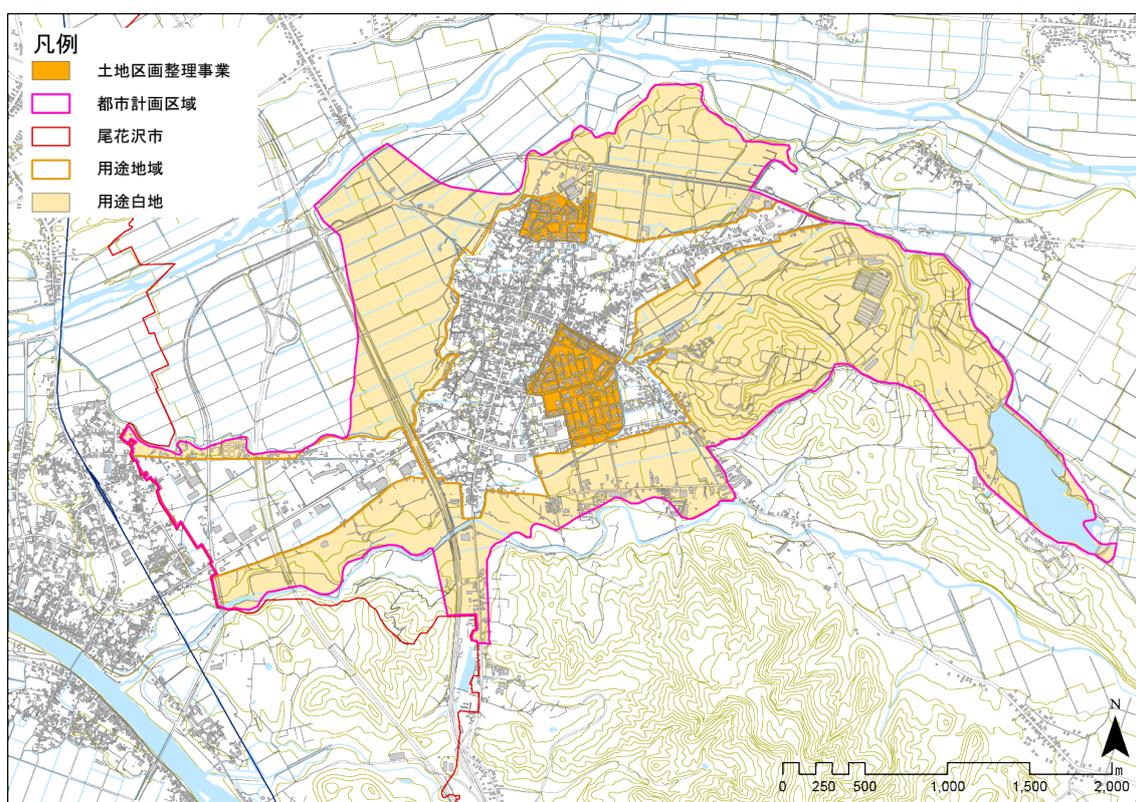


図 土地区画整理事業の実施状況



(3) 道路整備状況

本市全体で1,095路線・約544kmの道路があり、国道が2路線・46km、県道が12路線・82kmとなっています。道路舗装率は、国道が100%、県道が92.2%、市道1級が100%と幹線道路となる路線は概ね舗装されていますが、市道2級は85.1%、市道その他は44.9%となり、生活道路等身近な道路では舗装率が低くなっています。改良率についても同様の傾向が見られます。

表 道路の概要（令和3年3月31日時点）

区分	路線数	実延長	改良済	改良率	舗装済	舗装率
	本	m	m	%	m	%
国道	2	46,368.0	46,368.0	100.0	46,368.0	100.0
県道	12	82,443.0	71,362.0	86.6	76,024.0	92.2
市道1級	29	41,154.5	40,896.8	99.4	41,154.5	100.0
市道2級	43	55,522.4	43,826.2	78.9	47,237.2	85.1
市道その他	1,023	447,278.5	237,152.8	53.0	200,666.6	44.9
市道合計	1,095	543,955.4	321,875.8	59.2	289,058.3	53.1

(尾花沢市建設課調べ)

## 第2章 都市の現況動向の把握

### (4) 都市計画道路

本市の都市計画道路は11路線あり、そのほとんどが市街地内を通過します。8路線は昭和29年に都市計画決定され、平成13年に一斉見直しを実施しています。3・4・1及び3・4・5は概成済または未整備となっています。

表 都市計画道路一覧

番号	路線名称	当初決定年月日	最終変更年月日	起点	終点	幅員(m)	延長(m)
1・3・1	村山尾花沢線	H8.12.10	同左	村山市大字河島	大字尾花沢字高田	23.5	15,400
3・3・1	横内芦沢線	S49.3.29	同左	大字尾花沢字三分田	大字尾花沢字下川原	26.5	4,140
3・4・1	丹生川中ノ段線	S29.5.19	H13.7.24	大字尾花沢字田町	大字尾花沢字上新田	18.0	2,810
3・4・2	尾花沢駅長根線	S29.5.19	H13.7.24	大字尾花沢字西矢来	大字尾花沢字七色船	18.0	2,100
3・4・3	尾花沢大石田線	S29.5.19	H13.7.24	大字尾花沢字中新田	大字尾花沢字下新田	18.0	2,980
3・4・4	中学校臈気線	S29.5.19	H13.7.24	大字尾花沢字大道寺	若葉町一丁目	16.0	1,330
3・4・5	中央通り線	S29.5.19	H13.7.24	大字尾花沢字大道寺	臈気一丁目	18.0	1,700
3・4・6	尾花沢玉野線	S29.5.19	H13.7.24	大字大石田字上ノ原	大字尾花沢字上新田	18.0	5,870
3・5・1	尾花沢高等学校線	S29.5.19	H13.7.24	大字尾花沢字東矢来	大字尾花沢字中新田	12.0	520
3・5・2	替新町線	S29.5.19	H13.7.24	大字尾花沢字替町	新町三丁目	12.0	1,450
7・6・1	新町荒楯線	S80.11.30	同左	大字尾花沢字新町	大字尾花沢字中新田	9.0	520

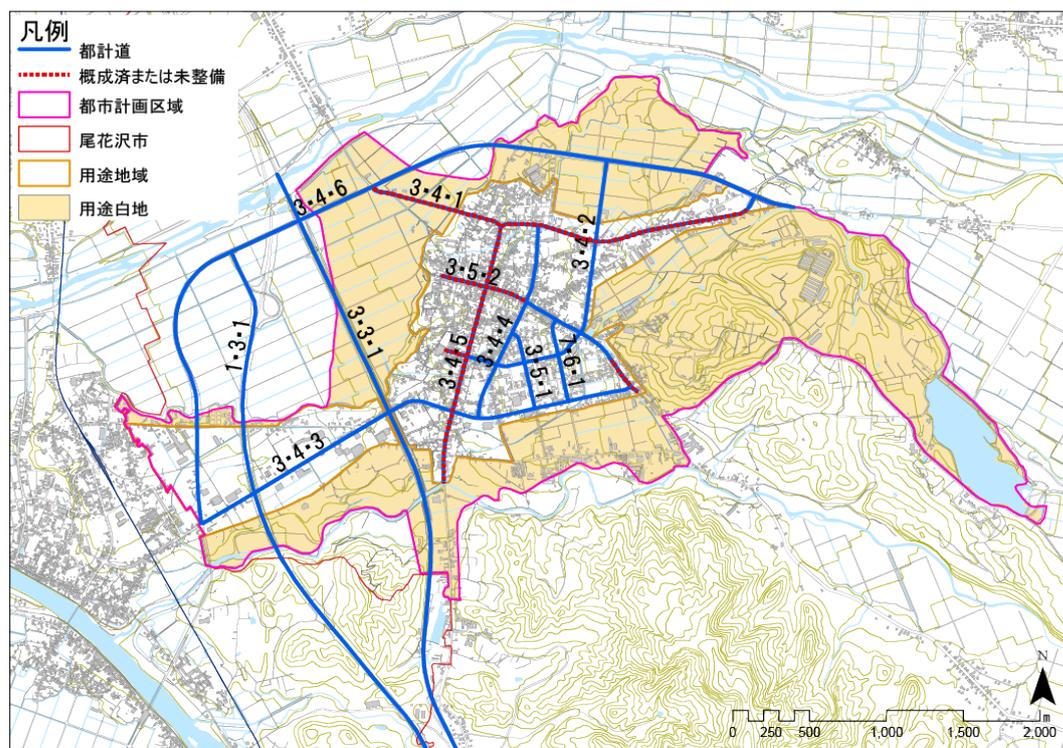


図 都市計画道路網図

## 第2章 都市の現況動向の把握

### (5) 公共交通

尾花沢市の路線バスは10路線（市運営8路線、民間2路線）が、尾花沢を中心に放射状の交通網を形成し、市内の主な公共交通として利用されています。市内循環、大石田駅通学線、市野々線、南沢線、毒沢線、鶴子線、細野線、原田線の8路線を市が運営し、インバウンド客で好調な银山線と、尾花沢待合所から北村山地区の基幹病院である公立病院までを民間事業者で運行しています。

#### 【市営】

路線名	運行場所	運行状況
市内循環線	北と南に2路線	北 午前1本、南 午前1本、午後2本
大石田駅通学線	市役所～大石田駅	平日運行 上り6便、下り5便 (令和3年7月～)
市野々線	市役所～市野々(宮沢地区)	平日土曜運行 上り6便、下り6便 (土曜のみ 上り5便、下り5便) 丹生経由6便、中島経由5便
南沢線	市役所～南沢(福原地区)	平日土曜運行 上り3便、下り2便 (土曜のみ 上り1便、下り2便)
毒沢線	市役所～毒沢(福原地区)	平日運行 上り4便、下り3便 野黒沢まで毒沢線と共通
鶴子線	(大石田～)市役所～花笠高原荘	上り5便、下り5便 土曜：上り1便運休、日曜：下り1便運休 上り下り1便ずつ JR 大石田駅発着
細野線	尾花沢待合所～細野・畑沢～尾花沢待合所	平日運行4便
原田線	平日：市役所～上柳健康増進施設 休日：市役所～徳良湖温泉花笠の湯	平日：上り3便、下り2便 休日：上り2便、下り3便
【参考】 牛房野線 五十沢線	市役所～牛房野 市役所～五十沢	「おばくる」へ転換(令和3年度より) 「おばくる」へ転換(令和4年度より)

#### 【民営】

路線名	運行場所	運行状況
银山線	JR 大石田駅～银山温泉	上り7便、下り7便 母袋経由2便、休日運休2便
公立病院線	公立病院～大石田駅～市役所	平日運行 上り5便、下り5便

## 第2章 都市の現況動向の把握

### (6) 道路の除雪状況

本市における除雪対策は、地域の実情に合わせ効率的な除雪体制を整えています。機械による除雪を原則としていますが、その他消雪道路の整備、流雪溝の活用により、効率的な雪処理を行っています。

令和3年度現在、除雪は5工区体制で実施しており、工区ごとの総延長は以下のとおりとなっています。

	総延長距離 (道路のみ)
第1工区(市街地東側/北町 地区)	35.183km
第2工区(福原地区)	46.459km
第3工区(宮沢/徳良湖 地区)	35.500km
第4工区(玉野/常盤 地区)	37.785km
第5工区(市街地西側/荻袋・牛房野 地区)	39.014km

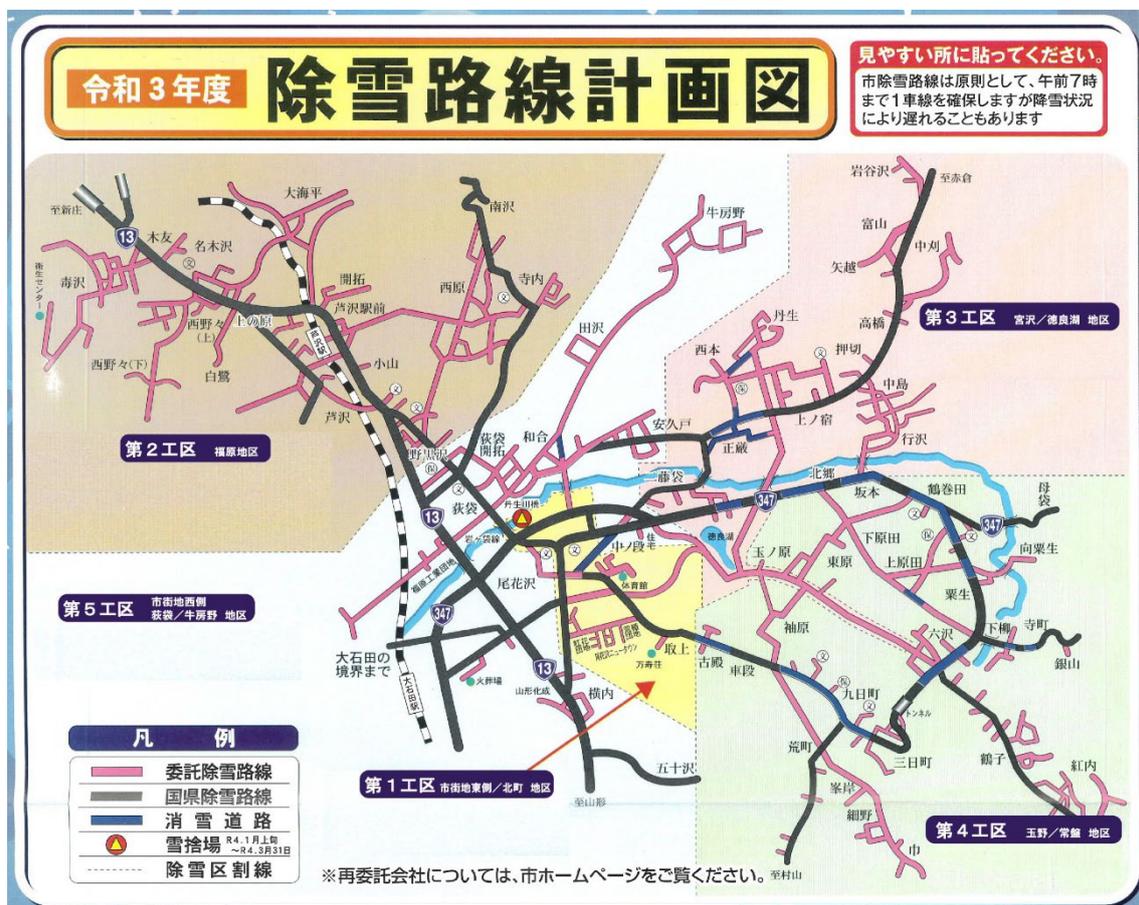


図 除雪路線計画図 (令和3年度)